

# 「業務加工」テーマに品種集合

## 横浜本場で見本市 横浜丸中青果の取組紹介も

青果育種研

種苗会社と青果卸会社などからなる青果育種研究会(会長＝宮本修・東京青果専務)は、横浜市中央卸売市場本場で「第150回品種見本市」を開催した。テーマを「業務加工の新しい取組み」とし、種苗会社17社が推奨品種を紹介。また、横浜丸中青果の岡田貴浩取締役が業務用野菜の生産・流通等の動向と同社の取組みなどについて講演した。

大和農園(奈良県天理市)は種無しの大玉スイカ「たべほうだい赤玉」をPR。食味が良く、糖

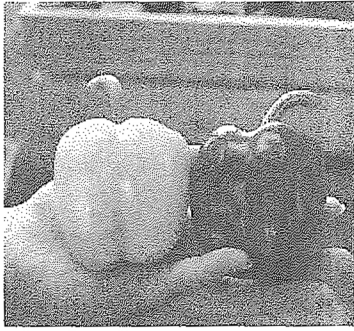


度は12〜13度になる。肉質が締まりシヤリ感にも富む。変形果、空洞果の発生が少なく、同社では「カット売り」といって押しする。埼玉原種育成会(埼玉県久喜市)は長さ27〜29センチになるキュウリ「恵沢シリーズ四葉キユウリ」を紹介。一般的なキユウリより長く、歩留まり性が高い。果実の水分が少ないためサンドイッチの具材や漬物、炒め物などにも向く。渡辺

採種場(宮城県美里町)では、業務用にも適した夏秋穫りの寒玉キ

ヤベツ「好菜堂」を出品。扁平形で1球1・5キ程度。外葉がやや小さめで球色が濃い。歯切れの良さで食味にもこだわっているという。

このほか、他社との差別化を狙う品種も。タキイ種苗(京都市下京区)では活性酸素を除去される機能性成分「ゲルセチン」を通常の秋まきタマネギの2倍含む「ゲルたま」をPR。肉はやや黄色味を帯びており、ス



「上右果肉の締りがよい」恵沢シリーズ四葉キユウリ(下)秀品率が高い「ベイビークス」

プや煮物にすると甘みが引き立つという。また横浜植木(横浜市南区)のバプリカ「ベイビークス」は果重が70〜80gのミニサイズでサラタにも適している。

サプライチェーン全体への意識必要

横浜丸中青果の岡田取締役は、食の外部化が進化する中「市場も機能を変化させていかななくてはならない」と述べ、一次加工・仕分け・パッキング、物流センター的な役割、商品・産地開発といった機能を挙げた。

また、これまでの商流は「産地と卸」「卸と仲卸」「仲卸と実需者」などと各段階で相対する業者との取引で完結しがちであったが、同社での取組みを踏まえ「商品づくりには多くの関係者が関わっており、サプライチェーン全体を意識することによって円滑な提案ができる」との旨を説いた。とくにサプライチェーン内での情

報共有が求められ、「原ゼリーが少なくかたくて日持ち性のあるトマトが望まれている」、冬場に台湾産レタスの輸入が増える中「サンドイッチには葉がかためて緑色が薄いものが好まれる」などと要望を挙げた。

この日は種苗会社関係者も多く聴講しており、「サンドイッチ業界では」と要望を挙げた。